

(株)セリユール

セリユール
長島理恵さん業種
企画開発・販売設立
2009年5月資本金
1000万円

オートロック電子錠の開発・販売を手掛ける株式会社セリユール。代表を務める長島理恵さんの起業のきっかけは、なんと韓流ドラマ。登場人物が鍵を持たずに「ピピッ、ピピッ、カチャッ」と玄関の鍵を開けていく。そこに目を奪われたという。これがオートロック電子錠との出会いだった。

韓国では9割に普及しているオートロック電子錠だが、日本での普及はまだ低い。しかし長島さんは「ドアを閉めれば勝手に鍵がかかり、開ける際には暗証番号を押すだけ。『ちょっとコンビニへ』『ちょっとゴミ出しへ』という時にも鍵を持たなくてよい。その便利さに惚れ込むと同時に、鍵のかけ忘れを防げる点は本当の意味での防犯となる」とその有用性に着目した。

起業したばかりで暗中模索する中、オートロック電子錠は「世の中を変え、鍵の歴史を変えられるだけでなく、新たなインフラを作れる商材だ」と確信。初の取引先が現れたことで会社設立を決心する。2009年5月20日にひとり起業、資本金300万円で株式会社セリユールを設立した。市場リサーチ時期には既存の製品を仕入れていたが、起業後はファブレスによって企画・設計開

発・販売に注力。日本のトップメーカーの電子部品を使った回路に設計し直す等、600万円をかけて商材の一部を変更し、スマートキードア機能を持つ「Premia (プレミア)」を含む販売を開始した。

その後2010年秋には自社開発のハンドル付きメイン錠「Iris (アイリス)」を発表。2014年夏には集合住宅向け商品の発売を予定している。短期間で段階的に製品のグレードアップが叶ったのも、ファブレスによって企画開発・販売に注力できたからと言えるだろう。

少数精鋭で世界に通用するブランドを目指す

ファブレスによる製造部分の省力化によって、自社のリソースを企画開発と営業販売に注力できるようになる。長島さんは組織の将来像を「基本的に少数精鋭で運営するメーカーになりたい。それがユーザーの方々に良い商品を安く提供出来る事になるから。新しいメーカーの有り方を築ければ」と話す。

『電子錠と言えばセリユール』と言われ、世界に通用するブランドを構築していきたい。まずは日本にオートロック電子錠を普及させたいですね」

セリユールは、優れた技術と創造性で高品質な製品とサービスを目指します。
serrure is a creativity and superior technology
I aim to service and Quality products.

レバーハンドル付き「Iris」、ICキーで解錠する「Grace」、暗証番号で解錠する「Cuty」、ドアに近づく解錠できる「Premia」を扱う。

企業情報

- 株式会社セリユール
- 東京都中央区銀座4-13-15 成和銀座ビル7階
- 03-6278-8835
- <http://www.serrure.co.jp>